

診療放射線部だより Vol.8

副診療放射線技師長 日高 智子

診療放射線部では、患者様に最適な診療を提供するため、各種画像診断機器を用いた検査を行っています。今年度7月よりアルツハイマー型認知症の診断に用いるアミロイドPETの検査を開始しました。今回は核医学検査の中から認知症の早期発見、治療方針の決定に役立つ検査をご紹介します。

認知症と検査の関係

認知症には、アルツハイマー型、レビー小体型、血管性認知症などいくつかの種類があります。核医学検査は、通常のCTやMRIではわかりにくい脳の動きや代謝の異常を画像化します。



SPECT/CT装置
GE社製 NM/CT860

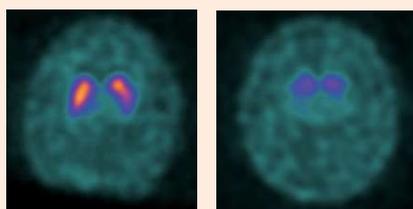


PET/CT装置
Siemens社製 True Point Biograph16

当施設でできる検査

ドーパミントランスポータシンチグラフィ(DAT)

パーキンソン病やレビー小体型認知症の診断に役立ちます。運動機能を調整する「ドーパミン」の働きを画像で確認します。

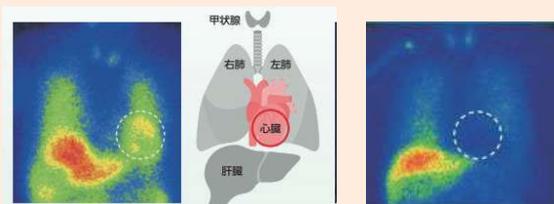


正常な場合

パーキンソン病

心臓交感神経シンチグラフィ(MIBG)

心臓の神経の働きを調べる検査です。レビー小体型認知症では心臓の集積が低下する特徴があります。

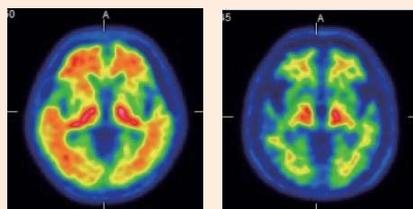


正常な場合

レビー小体型認知症

アミロイドPET

アルツハイマー型の原因とされる「アミロイドβ」の沈着を画像化します。2024年に保険適用となった治療薬を導入するために必要となる検査です。



異常沈着あり

異常沈着なし

大村地域でこれら検査を行っているのは当施設のみです。

検査のご依頼は、診療放射線部までお気軽にご相談ください。